

過去まで脱げ!

winner  
international critics prize  
cannes film festival  
an atom egoyan film  
made in canada

アトム・エゴイアン監督作品  
アライアンス・コミュニケーションズ・コーポレーション プレゼンツ  
エゴ・フィルム・アーツ製作

エキゾチカ

# EXOTICA

スクールガール・ストリッパーとDJとベット・ショップ・ボーイと税金検査官によるビザールなラブ・ストーリー

ALLIANCE COMMUNICATIONS CORPORATION PRESENTS  
EGO FILM ARTS PRODUCTION

BRUCE GREENWOOD  
MIA KIRSHNER  
DON MCKELLAR  
WITH ARSINEE KHANJIAN AND ELIAS KOTEAS

DIRECTOR OF PHOTOGRAPHY: PAUL SAROSSY (CSC)  
MUSIC: MYCHAEL DANNA  
PRODUCTION DESIGNERS: LINDA DEL ROSARIO AND RICHARD PARIS  
COSTUME DESIGNER: LINDA MUIR  
SOUND DESIGN: STEVEN MUNRO  
EDITOR: SUSAN SHIPTON  
ASSOCIATE PRODUCER: DAVID WEBB  
PRODUCERS: CAMELIA FRIEBERG AND ATOM EGOYAN  
WRITTEN AND DIRECTED BY ATOM EGOYAN

カンヌ映画祭 国際批評家協会賞 受賞

ブルース・グリーンウッド ミア・カーシュナー エリアス・コーティアス

撮影: ボール・サロシー (CSC)  
音楽: マイケル・ダンナ  
挿入歌: レナード・コーエン「エヴリバディ・ノウズ」  
美術: リンダ・デル・ロザリオ&リチャード・ハリス  
衣装: リンダ・ミュア  
録音: スティーブン・マンロウ  
編集: スーザン・シフトン  
製作補: デイヴィッド・ウェッブ  
製作: カメリア・フライバーグ&アトム・エゴイアン  
脚本・監督: アトム・エゴイアン

配給: 日本ヘラルド映画





story

## ピザールな愛のパズル

マーティン・デニーのジャケットから抜け出たようなインテリアが売りのナイトクラブ「エキゾチカ」。  
そこの一番人気は、スクールガールのコスプレでレナード・コーエンの「エウリヴァティ・ノウズ」に乗って  
ストリップをする美少女、クリスティーナ（ミア・カーシュナー）だった。彼女には、自分を毎晩のように指名して  
くれる常連客、フランシス（ブルース・グリーンウッド）がついていた。しかし、店の専属DJであるエリック（エ  
リック・コーティアス）は、なぜかいつも二人のテーブルを嫉妬に燃える目で見つめている。  
フランシスの昼間の顔は税金検査官で、彼はある疑いを調べるためにトーマス（ダン・マッケラー）が経営  
するペット・ショップへ行く。

ある晩、フランシスが何者かにそそのかされ、「エキゾチカ」のオキテ——踊り子が客をさわるのは自由だが、  
客は決して踊り子に触れてはいけない——を破ったことから、微妙な均衡で続いていたフランシスの「癒し  
の儀式」は崩壊。そして、4人の過去がだんだん暴かれていく。

エキゾチカ

an atom egoyan film  
made in canada

# EXOTICA



fan letter

アトム・エゴイアン・ファン・クラブ会員の弁

クエンティン・タランティーノ

「エゴイアンは、人間の皮膚の内側に入り込むような映画を作る……彼は本当に素晴らしい語り手である」

ウィム・ヴェンダース

「私の受賞は大変名誉なことだが、なぜ私の同僚であるカナダ人、アトム・エゴイアンに賞を与えないのか」

(87年、モントリオール映画祭でエゴイアンの長編2作目「FAMILY VIEWING」を観て、「ベルリン・天使の詩」の受賞を辞退した時の発言より)

ジャン＝ジャック・ベネックス

「日本でまだ『エキゾチカ』が公開されていないのなら、僕が自費で配給しよう」

(96年、ベネックス映画祭で来日した時の発言より)

criticism

「少女の罠、映画の罠」 滝本 誠

サイコ・セラピー映画

ラストシーンにむけてゆるやかに知的に構成されたサイコ・バズラーが「エキゾチカ」  
だ。ラストは「ユー・ジュアル・サスペクツ」のように、ずるいがしかし解放感をともな  
ったラストではなく、悲しみと空白を伴う、パズルの最後の一片である。サイコと  
書いたが、サイコ・サスペンスというよりも、奇妙にゆらぐサイコ・セラピーというべ  
き癒（いや）しのドラマ。しかもある事件をめぐる二人の。途中、税務調査員フラ  
ンシスが車に乗せた少女にお金を払うシークエンスがあり、小生は当然のように、  
おお、カナダでも「援助交際」が！と意気込んでしまったが、これも癒しの善行で  
あって、すっかりだまされてしまった。中年は、現実の買ばかりではなく、映画の罠  
にも簡単にはまるものらしい。「エキゾチカ」は、登場人物すべてが了解ずみの、  
セラピー・ドラマであって、知らないのは、ペットショップの青年オーナー、トーマス  
ぐらい、といっている。トーマスは、トーマスで、コンサートチケットを罠に、ゲイ・フ  
レンドをチョイスする。まあ、これも個人的な「癒し」にはちがいない。

頭を癒す少女ストリップ

一顧客としての小生にとって「癒し」とは何か？ と考えると、これはもうセラー服  
で登場、ゆるやかに悶え、突然に腰をグラインドしてくれる少女ストリッパー、ミア・  
カーシュナーのステージ上の太股の白い熱りにつぎらさう。メイクによって女は  
化ける。ラストで暗示されるように、美しく化け、愛されることが、このセラピー・ドラ  
マの意識の古層に横たわる、すべてのドラマの端緒なのだ。少女の癒しはこのメ  
イクで踊ること。ステージ上の彼女のダンシングは、露出に頼るよりもこちらの想  
像力を刺激する、ほどよい振付がなされていて、とてもヘッドが癒されるのである。  
ストリップを見たのは一度だけで、それもデイヴィッド・リンチのすすめでロスで見た  
「金髪系」だけだが、もちろん下とはならない。しかも、お色気というよりもスポーツ  
クラブのノリであり、想像力の関与する余地はなかった。ミアが演じたクリスティ  
ーナのように、ブラウスのボタンをはずすだけで小生は十分なのである。といって  
だし惜しみを彼女はしているわけではなく、白い肌に淡い乳暈、そこからやや濃  
度をまじつつ柔らかにボツと周辺と差異化して膨らむ乳首を、クラブ「エキゾチカ」  
の客席サービスでは見せてくれる。気弱な小生にはもう十二分だ。

トロントが生んだ人工的な肉体性

監督のアトム・エゴイアンは、デイヴィッド・クロウネンバーグに続いて、国際的な  
知名度を確立しつつあるカナダ映画界の期待の星である。いずれも心理的、人  
工的にとぎすまされた内容が共通するとみていいが、この秋、トロントを訪れて、そ  
の秘密の一端に触れたような気がした。とにかくダウンタウンに林立するビルは  
すべてガラスの塔であり、互いに互いのビルのガラスを反映して、それを見ていると、  
ある種の狂気の浮遊を実感できる。ひややかな狂気の浮遊。クロウネンバーグ「ク  
ラッシュ」の公開もまじかであり、ここは「エキゾチカ」と連続して見つづけ、二人  
の得意な世紀末嗜好の人工的な肉体性を体感してほしい。



# 近日〈都内独占〉ロードショー！

定員制・入替制

※特製ポストカード付前売券好評発売中／〈恵比寿ガーデンシネマ劇場窓口にて限定1000名様〉

前売鑑賞券（前1500円／中1300円／後2800円）好評発売中／〈ペア券は劇場〉

- 満席および上映開始後のご入場はできません。
- 事前に混雑状況をお問合せ下さい。

恵比寿ガーデンプレイス内・恵比寿三越となり 03  
(5420)  
恵比寿 ガーデンシネマ 6161